

命おとせ、スピードおとせ。

平署の交通道德十一章

平署では一日からはじまつた交通安全旬間の趣旨を徹底し事故の撲滅をはかるうとつぎのような「交通道德十二章」をつくり公報宣伝することになった。①わたくしたちは右側を車は左側を通りましよう②自転車は左側一列航行③路上遊戯はやめましよう④路上には物品などを出さないようにしましよう⑤ちよつと待てかげの車にハネられる⑥お母さんよく見て行こうよ右側を⑦右側はほくらの行く道、帰る道⑧注意一秒ケガ一生⑨車をうらまず油断をうらめ⑩右をみて左みて後みて油断なく⑪命おとさずスピードおとせ⑫事故は無理から油断から。

高潮にのまれ海中へ

初夏とともに海に川に釣糸をたれ大公署が自立つて多くなつてきく命拾いした人がある。二日前八時ごろ蟹島市原木田本素工員上野利一さんは小浜海水浴場附近の砂防堤突端で魚釣りをしていたところ突然高

月刊「いわさ」六月号

千七百人分の釜に入る

平二小・ミルクわかしに便利

平市胡麻沢漁社の月刊「いわさ」
《太刀身》かでたもじはつきの通
《秋浦》(佐用の朝霧)竹内光香(鳥
鶴木)阿部正治(加村だより)稻
島正(自動車談議)藤波京介(東
京の風)野崎万蔵(思い出)司郎
尼子会機関紙)石山宗太(?)
吉田甫(ある支那婦人の夢)眼部
幸田悠(須磨君子(詩)園賀勝彦
(小説)紫浪、米川三津夫、斧次
眞雄、高木愛治(短歌、俳句)森
子、眞尾悦子(対談)

四月の鉱工業生産指

平二小(校長湯山喜氏)にびつ
いたが、こんど入った大釜は三百
二十五リットル(二石八斗)
も入る金一千円也の旅なの
しかも二重釜でつづいて心配な
燃料は軽油バーナー式で五
時間半で全校生のミルクをま
なえるもの。

低落つづく卸売物価

経済企画庁二十九日の発表による
と三四四日終る酒商の卸売物
価指数は単週比四四・四%・六%
低落して一五五・四(軽油動効
基準)との引締実施前の七
月に比べ一・一%下落し

六月中旬から入居を開始すること
になった。この時存住宅は別名「
ケタはき住宅」とも呼ばれて、
店舗、三階が普通住宅とな
ったのである。完成前から大層希望が
あつたのである。

娘一人にも、こじら 「ゲタバキ住宅」完成

殺到していたもの。

「一階の店舗は六戸で、それも十
坪の十間に三層開き、また

三階建併存住宅が三十日完成、
六月中旬から入居を開始すること

になった。この時存住宅は別名「
ケタはき住宅」とも呼ばれて、
店舗、三階が普通住宅とな
ったのである。完成前から大層希望が
あつたのである。

工費百九十万円を投じて建築中
だった常磐市の鉄筋コンクリート
三階建併存住宅が三十日完成、
六月中旬から入居を開始すること

になった。この時存住宅は別名「
ケタはき住宅」とも呼ばれて、
店舗、三階が普通住宅とな
ったのである。完成前から大層希望が
あつたのである。

常盤

「ゲタバキ住宅」完成

六月中旬から入居を開始すること
になった。この時存住宅は別名「
ケタはき住宅」とも呼ばれて、
店舗、三階が普通住宅とな
ったのである。完成前から大層希望が
あつたのである。

市当局では新戸令建設にからみ
ておる。

父娘の愛情と夫との生活の切線をゆれ動く杏子の微妙な女ごころ……

4日より

杏子

原作 室生犀生
香川 京子 三井 美奈 小林 桂樹
木村 功 山村 聰 太刀川洋一
島倉千代子 北川 町子 傳

春のバラ展覧会

平で七、八、九の三日間

石城バラ園(笠置近郊笠置山)

主催の春のバラ展は七、八、九の

三日間公会堂で行われる。

期間中は食事、栽培相談室を開け

て愛好家の相談に応するほかバラ

栽培の手話を聞く。

さくらが救助された際現地にて「おさ

らわれて海中に転落した」

そばで飼育をしていた人が小浜浜

数が毎年四十人に大幅に下落すると

た。しかしこれは食料品の生産指

標数による四回対三回の下降率

二〇・五%から二〇・二%へと減少

が、通産省では今後も弱含みの

合も例年並の働きを示している

★ 映画は大映

世界館 4日より

総天然色

お姉さんと呼んだ人

扇 千景 小川 町子

市川右太衛門 長谷川裕見子

里見浩太郎 雪代敬子

花園ひろみ

伏見扇太郎

南郷京之助

市川右太衛門

長谷川裕見子

雪代敬子

花園ひろみ

市川右太衛門

長谷川裕見子

雪代敬子

